

## 共同研究会記録

雑誌名	日本人はキリスト教をどのように受容したか
巻	17
ページ	325-330
発行年	1998-11-30
その他のタイトル	Kyodo kenkyukai kiroku
URL	<a href="http://doi.org/10.15055/00005431">http://doi.org/10.15055/00005431</a>

共同研究会記録

【平成五年】

第一回 四月一九日

研究会発足にあたって

日本人種論と聖書の影

四月二〇日

インド少数民族におけるキリスト教の受容と変容

宣教師と近代インド学

第二回 五月二三日

浦上四番くずれをめぐる

雲照大日本国教論をめぐる

五月二九日

潜伏キリシタンの終末論

キリシタンの果報

第三回 六月一四日

韓国のキリスト教系新興宗教

父殺しの精神史

六月一五日

茶の湯とキリスト教

隠れ念仏と隠れキリシタンの重層

山折 哲雄

井上 章一

長田 俊樹

高橋 孝信

川村 邦光

正木 晃

紙谷 威広

米井 力也

川村 湊

島田 裕巳

小谷 晴勇

米村 竜治

第四回 七月一六日

カクレキリシタンの信仰構造

蘭学時代のキリスト教知識

七月一七日

イエズス会における日本文化考と宣教法（一六・一七世紀）

E・ヨリッセン

宮崎賢太郎  
松田 清

【平成六年】

第五回 一月一三日

内村鑑三と日本思想史

内村鑑三とカール・バルト——『ローマ書』解釈の同時性——

質疑討論「内村鑑三とキリスト教」

一月一四日

日本のキリスト教と修養道徳

大正期南蛮ブームのなかで——芥川龍之介と中里介山——

日本近代文学とキリスト教

質疑討論「日本文学とキリスト教」

一月一五日

インディオはイエズス会をどのように受容したか

——日本人と比較して——

南インドにおけるキリスト教受容

第六回 四月二五日

新保 祐司  
富岡幸一郎  
全 員  
島 蘭 進  
鈴木 貞美  
佐藤 泰正  
全 員  
中牧 弘允  
重松 信司

日本人はどのようにキリスト教を受容したか

山折 哲雄

—— これまでの共同研究会をふりかえって ——  
討論会

「日本人はどのようにキリスト教を受容したか」

コメンテーター 井上章一・長田俊樹

四月二十六日

インドにおける二つのキリスト教

田中 雅一

—— 村落キリスト教とマリア崇拜 ——

インドの近代とキリスト教

小谷 汪之

第七回

五月二十六日

中国におけるキリスト教伝播上の諸問題

星宮 智光

明治初年のプロテスタント教会と静岡

山口 昌男

五月二十七日

クリスチャン・ヒーリングの今日的展開

池上 良正

第八回

六月二一日

日本人とキリスト教

J・スインゲドゥ

尾崎豊における一神教的なもの

森岡 正博

—— 癒しとしてのロックン・ロール ——

六月二二日

キリスト教 —— 悲しみと癒しの側面から ——

山形 孝夫

森有礼とキリスト教

園田 英弘

クリスチャン宰相 大平正芳の政治哲学

御厨 貴

第九回 七月二七日

韓国の社会とキリスト教

秀村 研二

韓国のキリスト教とシャーマニズム——『祈禱院』六十年——

渕上 恭子

七月二八日

神道について

フランソワ・マセ

林羅山の耶蘇教観

上垣外憲一

【平成七年】

第一〇回 三月一七日

本年度の共同研究会をふりかえって

山析 哲雄

総括討論

「日本人はどのようにキリスト教を受容したか」

コメンテーター 川村邦光・長田俊樹

三月一八日

現地報告

インドのサイババ訪問報告（スライド使用）

島田 裕巳

「平成七年度共同研究会打ち合わせ」

全 員

第二一回 五月一九日

民衆ヒンドゥー教の供儀報告要旨

田中 雅一

オウム真理教の宗教史的理解

島田 裕巳

五月二〇日

キリスト教とナショナリズム

阿部 美哉

日本人のキリスト教受容をめぐる

第二回 六月一九日

アムウェイ・マルチ商法の宗教性

キリシタンとクリスマス

六月二〇日

反省会とキリスト教

第三回 七月一七日

天守閣（天主）と天主教

——江戸後期のキリシタン幻想をめぐる——

生月山田の初田様の行事について

七月一八日

いけにえとしてのキリシタン

日本人のキリスト教受容 —— 人脈の面から ——

第四回 九月二五日

賀川豊彦におけるキリスト教

京都学派の系譜学（一）

——「愚鈍」なる哲学者、または奇人としての西田幾多郎——

九月二六日

初期キリシタン布教について

キリシタン時代のキリスト教受容について

荒木美智雄

上田 紀行

米井 力也

白幡洋三郎

井上 章一

官崎賢太郎

川村 邦光

鈴木 範久

岸 英司

小谷 晴勇

五野井隆史

井出 勝美

【平成八年】

第一五回 二月二十九日

一六・七世紀におけるキリシタン文学とその宗教的背景

キリスト教との葛藤と進歩思想——日本宗教への評価と変動——

三月一日

芳賀 徹

島蘭 進

「平成七年度研究会の総括討論」

第一六回 六月二十八日

自由討議「キリシタンは要するにどんなキリスト教徒だったのか」

六月二十九日

全 員

自由討議「キリスト教は近代日本人に要するにどんな影響を与えてきたのか」

全 員

【平成九年】

第一七回 三月一二日

遠藤周作はたしてキリスト教徒か

内村鑑三はたしてキリスト教徒か

三月一三日

山折 哲雄

鈴木 貞美

日韓両国のクリスマスの位置づけ

東方の三博士——キリシタンの位置づけ——

宮崎賢太郎著『カクレキリシタンの信仰世界』をめぐって

紙谷評に答える

三月一四日

言語学のキーワードで解く宗教学

長田 俊樹

申 昌浩

米井 力也

紙谷 威広

宮崎賢太郎